

第8回

從三位 上杉曦山公之碑 (丸の内一丁目)

今回は、松が岬公園の北東隅の土塁に建つ巨大な石碑、從三位上杉曦山公之碑を紹介いたします。

第12代藩主

上杉斉憲の顕彰碑

「曦山」は、上杉斉憲の号です。斉憲は、天保10年(1839)に20歳で第12代米沢藩主となりました。幕末の動乱期には將軍家茂に従って上洛し、京都警備を担当。聡明な藩主として朝廷と幕府の信望も厚く、左近衛権中將に任命され、幕府からは屋代郷3万石を賜って米沢藩は18万石となりました。

ところが戊辰戦争では、会津との深い縁などから新政府軍と敵対する側となり官位は停止。降伏後の処分で隠居と4万石の召上げが命じられました。

明治維新後、旧米沢藩士たちが中心となつて、卓越した旧藩主の汚名を雪ぐ活動が行われ、明治13年には從四位に復歸を果たしました。更に明治20年に正四位、明治22年4月に從三位に昇進しました。その活動の様子は友田昌宏著『戊辰雪冤』(講談社現代新書)に詳しく記されています。

斉憲は、從三位昇進間もない5月20日に死去、享年70でした。そして明治24年、旧藩士たちによって、斉憲の遺徳をしのぶ巨碑が米沢城本丸跡に建立されたのです。

一流の 学者・書家・石工の名が

正面の題字は、陸軍大将兼參謀總長で書道に優れた有栖川宮熾仁親王の筆です。裏面の斉憲の経歴は勝安房(海舟)の撰文で、明治の三書家として名高い金井之恭が書し、江戸の名石工・宮龜年が刻んでいます。また清国公使の李経方が斉憲の功績を讃えた銘(四言の韻文)も添えられるなど、当代きつての名士・名工の名が見られます。

ただし、経歴は実質的には旧米沢藩士で昇進運動の中心となつた宮島誠一郎が起草したことが知られています。

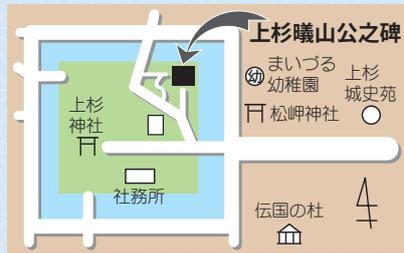
巨石は横川から 市民の協力で運搬

石碑は高さ約305cm、幅約163cm、厚さ98cm。土台の石だけでも高さ約160cmと、とても大きなものです。中でも碑文を刻む棹石は、東李山の横川(大平集落の奥)で見つかった巨石で、予算書には総予算四千円のうち、棹石運送費が千円と計上されています。

この巨石を山奥から運び出すのは難航したようで、南原住民のお手伝い、米沢中学や興讓学校の生徒の応援など、市民の協力を得てようやく運搬されました(市立米沢図書館蔵・竹俣家文書)。



江戸時代は「御三階」と称された隅櫓が建っていた場所。そこに石碑が建てられ、現在は桜の名所として賑わっています。



一生青春宣言！

一晩降り続いた雨も上がり、暖かい春の日差しに包まれ始めた朝、細谷さんご夫婦に河川敷を歩いていただきました。「もうじき桜が咲いて賑やかになるなあ」と会話を交わしながらゆっくり歩いて行くお二人の周りには、とても穏やかな時間が流れていました。(4月15日撮影)



表紙解説